地中海の史蹟めぐり

岩波写真文庫 280

地中海の史蹟めぐり
280

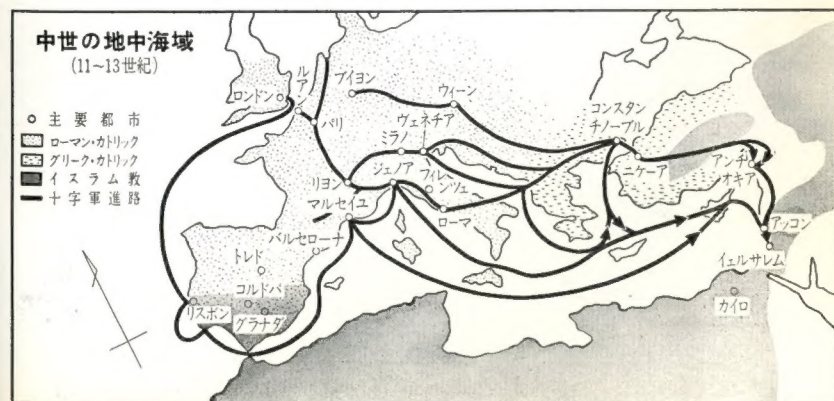
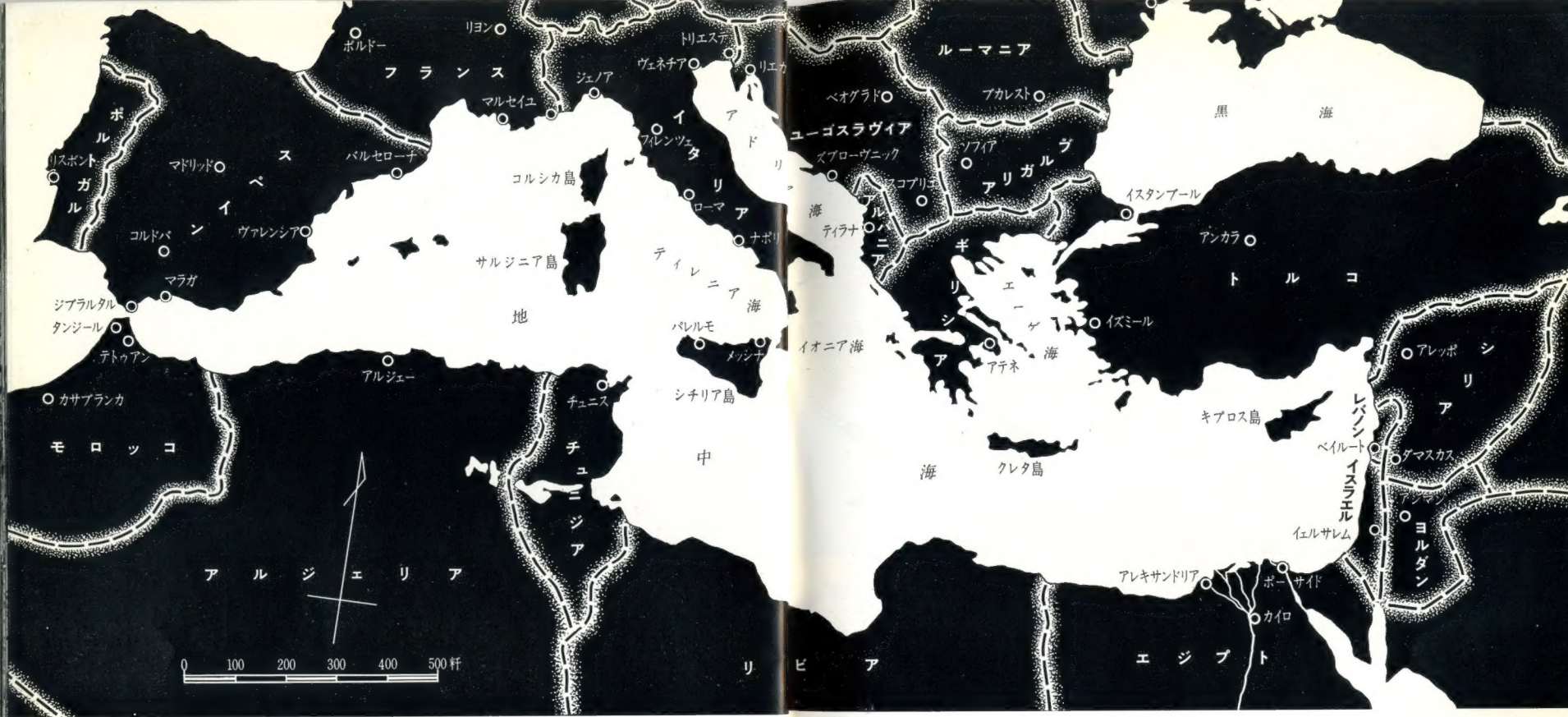
岩波写真文庫　280　地中海の史蹟めぐり

編集　岩波書店編集部　岩波映画製作所
監修　江上波夫
写真　江上波夫

シチリア島．アグリジェントのユノ・ラキニアの神殿．B.C. 5C.

地中海の名を聞くときに、私達日本人は瀬戸内海のような内海を想いうかべる。だが、地中海は瀬戸内海のように同系の民族、同系の文化に取巻かれた海ではない。多数の異系の民族、文化がこれを囲んでいる。しかも、これらのさまざまの民族、文化は東地中海岸のアラビア人やその文化が内陸のそれと異なるように、南欧の国々がアルプス以北のヨーロッパと、またサハラ以北のアフリカが以南のアフリカと異なるように、後背地の民族、文化とも本質的に違っている。数千年来、地中海を媒体として沿岸の数多くの民族、文化が互いに混り合った結果である。大きくはイスラム文化圏とキリスト教文化圏に、細かくは十余の国々に分けられるこの地域は民族的にも、文化的にも一連のものなのだ。本書はこうした観点から、この文化圏の特色、また個々の国々がこの文化圏内で過去に果し、現在、果しつつある役割を描き出すことに努めた。

目　　次

定価100円　1958年11月25日発行　© 発行者　岩波雄二郎　印刷者　米屋勇　印刷所　東京都港区芝浦2ノ1 半七写真印刷工業株式会社　製本所　永井製本所　発行所　東京都千代田区神田一ツ橋2ノ3　株式会社岩波書店

地中海はヨーロッパの海ではない。またアジアの海でもアフリカの海でもない。アジアとヨーロッパとアフリカの、三つの大陸に囲まれた一個の独立した海域で、古くからそれ自体、一つの世界を形成し、今日に至っている。西アジアで起り、文明の起源となった農耕牧畜の生産経済がヨーロッパ、アフリカに伝わったのもこの地中海という大動脈を通してであり、多くの世界的文明もこの地中海域を揺籃として育ち、ここを中心として旧大陸に拡がっていった。その意味では、歴史的にみれば地中海とその周辺、すなわち地中海域は旧大陸の少くも西半分の心臓部ともいうべきところである。そこにはエジプト、フェニキア、ヒッタイトのオリエント文明が先ず起り、次いで、ギリシア、エトルスク、ローマの古典文明が栄え、キリスト教もイスラム教も、この地を地盤としてそれぞれ別個の中世文明を築き上げた。また近代ヨーロッパ文明の源泉となつたルネサンス文化も、ここからヨーロッパの諸国に及んでいった。西ヨーロッパ人の世界侵略、植民活動、第一次大戦の原因となったバルカン問題、三B政策、その他、十六世紀以降の世界史的な大事件の多くもこの地中海域を根源として起った。そして現在なお、東はシリア、エジプトか

ら、西はアルジェリア、モロッコに至るアラブ民族の独立運動、キプロス島の帰属問題などを抱えているのも地中海域である。

この地中海は洪積世初期にはジブラルタル海峡のところで大西洋ときりはなされ、更にシチリヤ島で東西に二分された大きな湖であった。従って、ヨーロッパとアフリカ二大陸が連なっていた当時は動植物の南北移動も容易で、この時、アジアやアフリカの哺乳動物の多くの種類がヨーロッパに拡がったといわれる。洪積世の後半にはネアンデルタール人と呼ばれる旧人類がこの地域に現われたが、彼等の残した石器文化、すなわちムスティエ文化は地中海をはさんで、その南北に濃厚に分布している。洪積世の末期にはクロマニョン人、グリマルディ人などの名で呼ばれる各種の現生人類がこの地域に現われた。その活躍のあとは南フランスやイタリアの洞窟で見出された動物の壁画や女性裸像の彫刻、東スペインや北アフリカの岩陰にみられる戦争や狩猟、舞踊などの場面の壁画からもうかがわれる。このように地中海域は旧大陸のうちでも最も早く、十万年以前から人類が住みつき、当時の最も高度の文化の花を咲かしたところであるが、それはこの地域の温暖な気候と植物、海産物の豊かさが原因であった。

ナイル河．ルクソール付近

エジプト　エジプトはナイルの賜物といわれる。全くその通りで、人の住んでいるのは今もナイル河流域の狭い、細長い地帯と河口のデルタ地帯だけである。その他は全て荒涼たる砂漠で人も住めず、かつて文明の起ったこともない。ナイル河は毎年定期的に氾濫して沃土をもたらしたが、それだけにここに定住した人達は始めから共同して治水灌漑の仕事に当たらなければならなかった。ナイルの水につながる人達は一連の生活圏をつくること、またこの生活圏を統制する集権的な権力を必要とした。意外に早く、すでに紀元前三千年頃からファラオを中心とした国家的統一が完成し、独特な性格のエジプト文明が形成されたのも、これが大きな要因であった。数々の遺蹟を残したこのエジプト文明は、前後三十王朝の間続いた後、前四世紀期末、アレキサンダー大王の征服をもって終りを告げた。その後はギリシア、ローマ化され、七世紀以後は引き続きイスラム文化圏に属している。

水タバコを吸う人

サッカーラ．階段式ピラミッド．B.C.28C.

カイロ．アズハル大学．創始は972年

案内人たち．ギーザのピラミッドの前で

カイロ．富豪の家の入口

市場に出かける農夫たち．木はナツメヤシ

メンフィス．ラムセス二世の巨像．B.C.13C.

カイロはナイル河の三角洲にあたる下エジプトと，それより南のナイル河流域の上エジプトの境，ナイル河が幾つかの分流にわかれる位置を占める．現在，イスタンブールと並んで地中海域東部の最大の都会であり，アラブ連合の首府であるが，この付近は昔からエジプトの重要地点であった．古王国時代にはカイロの南方，メンフィスに都が置かれていた．カイロの町から西に，ナイル河をへだてた彼岸の砂漠には，ギーザの大ピラミッドが眺められる．スフィンクスと共にエジプト文明の遺物中，最も有名なこのピラミッドは，単に巨大な方錐形の石造物にすぎないのだが，妙に魅力的で人を誘惑する．だが，実際に行ってみるとこの巨大なギーザのピラミッドよりもサッカーラの階段式ピラミッドの方が興味深い．近年，その周辺の発掘が進められたため，最古のピラミッドの状態だけでなく，周壁や墳墓，列柱のある建物など，「階段式ピラミッド複合体」の全体をみることができる．

テーベ. デール・エル・バハリ葬祭殿. B. C. 15C.

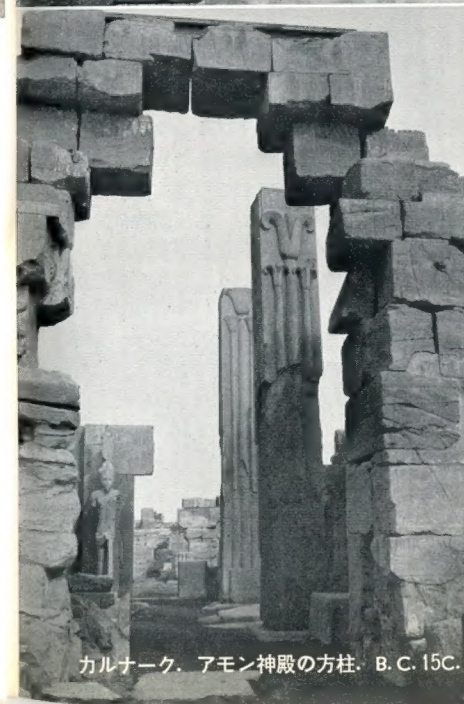
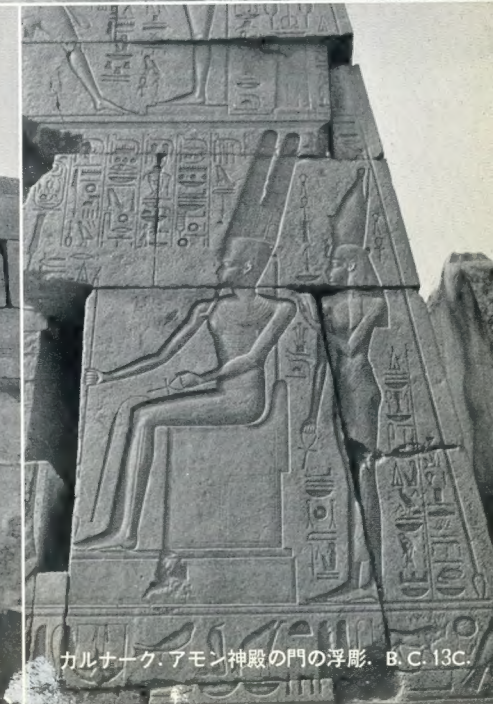
テーベ. 王陵の谷. 陸墓の入口がみえる

カルナーク. アモン神殿の多柱室. B. C. 13C.

テーベは上エジプトの中心にある. 中王国時代から新王国時代にかけてはここに都が置かれた. 新王国時代はエジプトの国威がシリア, レバノン, クレタ島など砂漠や海をこえて大いにふるった時代で, その勢威の発現とみられる大記念物がテーベを中心に数多く残っている. ルクソールやカルナークの大神殿, テーベの王陵の谷に連なる歴代ファラオの墳墓, デール・エル・バハリの葬祭殿, ラメッセウムなどがその代表的遺蹟で, 何れも巨大な石造建築である. ルクソールやカルナークの神殿をみると, いかに古代エジプト人が神々の世界の実現のために, 地上でその全労力を投入したかがわかる. 断崖深く掘りこめられた王陵の内壁一面に描かれた壁画や, そこで発見された金銀財宝の豊かさはファラオの権力と, 人は死後も生命を持ち続けるという彼等の信念の根強さを語るものであろう. 比較的小さな王陵にすぎないトゥト・アンク・アモンの墓にさえ驚くほどの財宝が埋められていた.

テーベ. ラメッセウム. B. C. 13C.

テーベの丘遠望

トゥト・アンク・アモンの墓室壁画. B. C. 14C.

カルナーク. アモン神殿の方柱. B. C. 15C.

カルナーク. アモン神殿の門の浮彫. B. C. 13C.

ベイルート市街．アラビア風の人もかなり目につく

レバノン　ここは昔のフェニキアの地に当たる。前面は地中海にのぞみ、背後には狭いベカの盆地をはさんでレバノン、アンティレバノンの二山脈が控え、その西はシリアの大砂漠に続いている。面積は秋田県ほどだ。この地形に制約されてフェニキアの人々は早くから地中海上に活躍、一方ではメソポタミヤ、他方ではエジプト、ギリシア方面と文化的、経済的に接触し、更に北アフリカからシチリア島、イベリア半島にまで植民活動を展開、オリエント文明を地中海域に伝播する上に大きな役割を果した。アルファベットを発明したのもフェニキア人である。ビブロス、シドンなど当時の都の跡があり、ローマ時代にはその東方領として重要な位置を占めたため、バールベックに代表されるその時代の遺蹟も多い。シリア、レバノン、ヨルダン、イスラエルの近隣諸国と共に、第一次大戦以前はトルコ領であった。完全な独立を獲得したのは第二次大戦後である。他のアラブ諸国と異なり、キリスト教徒が過半数を占めていること、ベイルートを中心とする通過貿易に収入の多くを依存していることなどのため西欧諸国との結びつきが強い。

ピジョン島．旧石器時代の遺蹟がある

ベイルート競馬場

ベイルート．フェニキア時代からの古い港

シドン．十字軍時代の城塞．13C.

レバノンの漁夫．ベイルート付近で

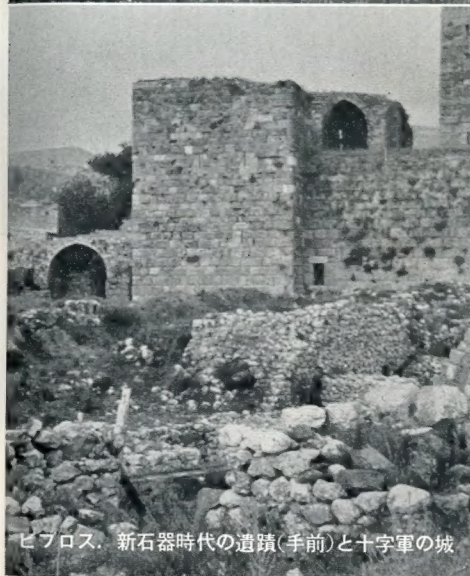
ジプシーの女

眼前に紺碧の海を，背後には余り高くないが一年の半ばを雪に覆われるレバノン山脈を控えるレバノンの首都，ベイルートの街は，地中海域でも最も美しく，すぐれた観光地の一つだ．フリー・ポートというわけでカメラや宝石類が安く買えるのも人々を集める魅力となっている．しかし，この観光国の内面は決しておだやかではない．キリスト教徒とイスラム教徒の対立は根強いものがある．ベイルートには浴室にまで電話のある近代化されたホテルがある一方，そこから1時間も自動車でレバノン山中に入ると部族制のドゥールーズ族がいて叛服常ない．街にはきれいなみなりをした，乞食とも見えない乞食がいる．近代化しつつあるのは確かだが，社会的にも経済的にも薄弱な面が目立つ．ベイルート付近の海岸は荒涼たる砂浜か岩の露出したところが多いが，市の北に名所，ピジョン島がある．この島を見下す岬のレストランは魚料理が自慢だ．その付近一帯からは旧石器が出土する．

バールベック．バール大神殿列柱．1～2C.

バールベック．バッカス神殿の浮彫装飾

ビブロスは東地中海域でも最も古い港の一つで，紀元前3千年頃には最初の街が築かれた．前2千年以降アモール人，ヒクソス人，エジプト人が次々とここを支配，前1200年頃，同じフェニキアのティルスの覇権に属し，その後もローマ時代，更に十字軍の時代に至るまでレバノン地方の要港として栄えた．従ってここには各時代の住居址，城壁，神殿の遺蹟があり，ローマ時代の劇場，十字軍時代の城塞もある．ベイルートからビブロスへの道はナール・エル・ケルブという美しい谷を通るが，ここにはエジプトの植民以来，現在の独立に至るまでのこの地方の主な支配者の記念碑が崖に刻まれている．レバノン山脈の東側，ベカの盆地にあるバールベックの神殿は土着の太陽神バールをローマ人がジュピターと結びつけて祀ったもの．世界七不思議の一つに数えられた大建築で，今も高さ20米を越す大円柱が6本残り，ローマ時代，その東方領の中心としてここが占めていた重要性がわかる．

5月中旬，レバノン山脈にはまだ雪がある

ビブロス．新石器時代の遺蹟(手前)と十字軍の城

ビブロス．オベリスク神殿．B.C.20C.頃

ナール・エル・ケルブ(犬の川)渓谷の橋

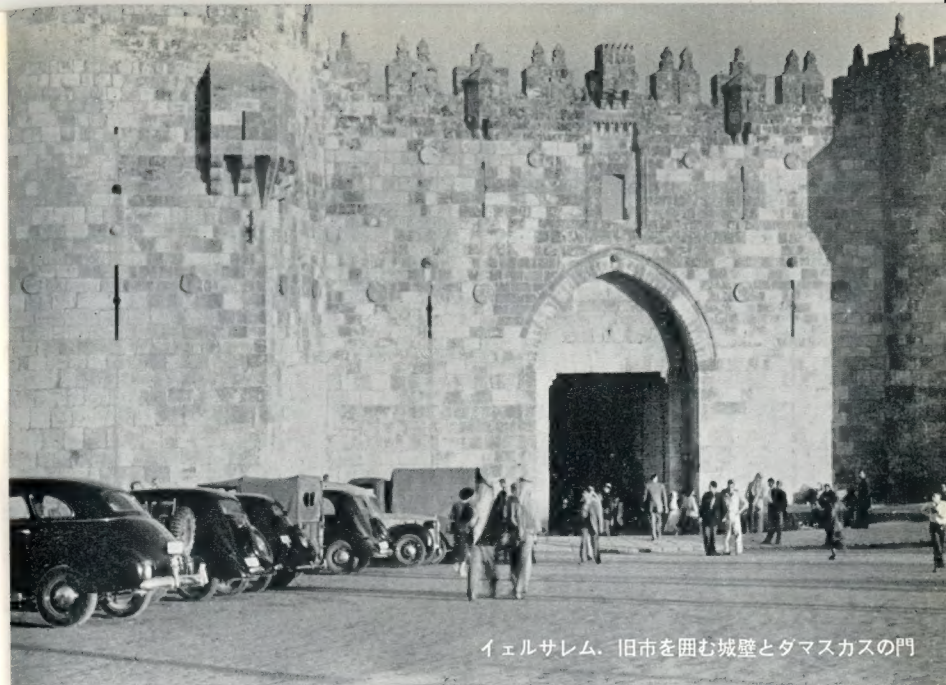
ナール・エル・ケルブ．エジプト，アッシリアの碑文

イェルサレム．旧市を囲む城壁とダマスカスの門

ヨルダン　イラクの王政がくずれた今ではヨルダンはマホメットの子孫といわれるハシミット王家の支配する唯一の王国となった。キリストの生まれたベトレヘム、その墓のあるイェルサレムなどがあって世界中のキリスト教徒の巡礼地である。今、ヨルダンとイスラエルの二国に分かれているヨルダン河の流域はパレスチナの地であり、モーゼに率いられたヘブライ人がここに移り住み、前十世紀にはイェルサレムに都してダヴィデ、ソロモンの「黄金時代」を現出した土地である。しかし、この土地はフェニキアと同様、周囲の強大な民族の圧迫や支配を受け、ヘブライ人はその歴史の大部分を被圧迫民族として過ごさねばならなかった。こうした境遇の彼等を支えたのがエホバは唯一最高の神で、自分達はその神に選ばれた民であるという意識であった。ローマがこの地方を支配した時代に現われたキリストの人類愛の教えも、被圧迫民族の境遇が生み出したものといえよう。現在のヨルダンは独立を保っているとはいえ、経済的には自立のできない状態である。

イェルサレム城内で

イェルサレム．ゲッセマネの園

イェルサレムのユダヤ人墓地．アラブに壊された

イェルサレム．キリストの墓のある聖墳墓寺院

キリストが囚閉されたと伝える石牢

ベトレヘムの街と聖生誕教会

イェルサレム城内のスーク(市場)入口で

イェルサレムはヨルダン，イスラエルの両国にまたがる国境の街だ．ユダヤ人の国，イスラエルの首府でもあるがキリスト教やイスラム教関係の遺蹟のある旧市街は殆んどヨルダン領に属している．旧市街を囲む城壁のダマスカスの門，ヘロドの門など，有名な門もヨルダン側にある．キリストの墓のある聖墳墓寺院，キリストが磔刑にされたゴルゴダの丘，祈りを捧げたゲッセマネの園など，新約聖書でなじみ深いところが城内，城外に点在している．だが不可解なことも多い．聖墳墓寺院ではキリスト教の各宗派が別々の部屋を持ち，祈禱を捧げるにも異った祭式を固守し，墓前にもそれぞれ別にランプを上げている．ユダヤ人墓地では最近のアラブ人，ユダヤ人の闘争の結果，墓碑が打倒されている一方，聖墳墓寺院の入口はイスラム教徒に守られている．十字軍時代，イスラム軍の名将サラディンにキリストの墓を守るよう命ぜられた人達の子孫がいまだにその命を奉じているのだという．

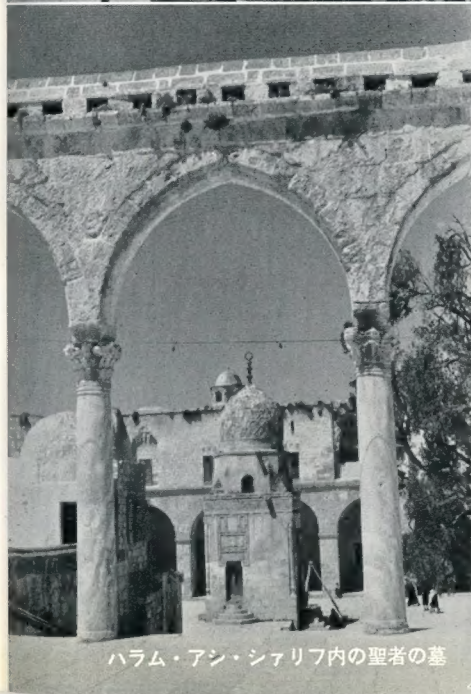
首都アンマン．右はイスラム寺院

死海．遠景はモアブの山

アンマン．ローマ時代の野外劇場

キリスト教の聖地であるイェルサレムはまたユダヤ教，イスラム教の聖地でもある．アブラハムが神に犠牲を捧げたところで，マホメットが昇天したところでもあると伝える城内の大きな岩の上には，オムマヤ朝時代，大きなドームがつくられた．岩のモスクがそれで，その建築は世界のイスラム建築中，最も壮麗なものともいわれ，付近の諸建築と共に静寂な，純化された宗教的雰囲気をつくっている．イェルサレムの東，ヨルダン河の谷は世界最低の土地である．谷の南端，死海の標高は海面下 392 米．塩分が濃く，ヨルダン河から魚がこの湖にはいると死ぬので死海の名がある．だがその水は実に青く，モアブの山々がせまる風景は意外に美しい．ヨルダンの首都アンマンも古い街だ．ローマ時代にフィラデルフィアと云われ，この方面の政治的，軍事的中心地であった．ここから北，シリアのダマスカスまでは草原が続き，羊の群とラクダに乗った剽悍なヨルダン兵の姿が時たま見られる．

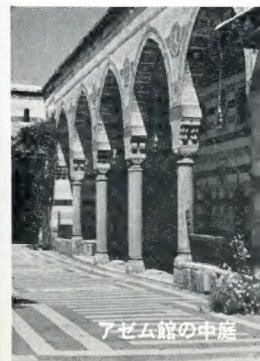
イェルサレムのハラム・アシ・シァリフ．この中に岩のモスクがある．遠景は橄欖の丘

岩のモスク．最も荘麗なイスラム建築の一つ．神聖な岩をおおって築かれている

ハラム・アシ・シァリフ内の聖者の墓

ハラム・アシ・シァリフの中

ダマスカス．年寄りの女はここでも顔をおおっている

シリア
アレッポ
ユーフラテス河
ラタキエ
バニアス
ハマ
ホムス
∴パルミュラ
ベイルート
ダマスカス

シリア　シリアはヨルダンやレバノンに較べるとはるかに大きい。その国土は東にのびて遠くユーフラテス河の流域に達しているが、東半分はいわゆるシリアの大砂漠で殆んど経済的な価値はない。シリアで重要なのは地中海域に属するその西半であり、その意味ではやはり地中海域の国の一つといえよう。ダマスカス、ホムス、ハマ、アレッポなどのシリア有数の都市が南北に連なり、海岸にはラタキエ、バニアスなどの港が並んでいる。アレッポ、ハマを中心とするオロンテス河流域は麦の産額が多く、このためシリアは食糧の自給が可能だ。アラブ諸国のうち最も安定、進歩した国として、エジプトと結んでアラブ連合を形成、民族運動の中心となっているのも、こうした経済的な裏付けがあるからであろう。紀元前二千年頃、エジプトの侵入を受けて以来、ヒッタイト、アッシリア、ペルシアの支配を受け、ついでセレウコス家の手を経てローマ帝国領となった。古都ダマスカスで知られるようにバイブル・ランドの主要部であり、キリスト教とも因縁が深い土地である。

アゼム館の中庭

中部シリアの農村と階段畑

中部シリアに残る十字軍構築の城

ハマの大水車．直径30米，街の公園に送水する

北部シリアの泥の家．小さい穴は鳩の巣

オムマヤ・モスクの回廊．8C．

オムマヤ・モスクの壁画．8C．

西アジアの国々はどこでもそうだが，シリアもまた都市と農村の暮しの差が著しい．ダマスカスの新市街のように，ヨーロッパの都市と比肩しうる近代的な都市がある一方，田舎には，いまだに貧弱な泥づくりの農家が多い．ダマスカスはアンティレバノン山脈の麓，バラダの清流に沿う一種のオアシスに早くから発達した都会で，長い間，西アジアの政治・文化の中心地であった．この都市の最大の名所，オムマヤ・モスクは4世紀にローマ皇帝が献堂した聖ヨハネ寺院がイスラム寺院に変えられたものといわれ，ビザンチン様式を伝えるイスラム初期の代表的建築であるが，その中にはサロメで名高い洗礼のヨハネの首を葬ったと伝える墓がいまも大切に保存されている．だがダマスカスは現代にも生きている．近代的な博物館，立派な大学もある．英，仏，米人の外，ソヴィエト人や中共の人々も数多くみられるのは，この街が西アジアの国際関係上，重要な位置を占めているためであろう．

市場の広場「アゴーラ」

トルコの城から墓場の谷をみる

石棺の彫像、埋葬した人を表わしている

シリア砂漠

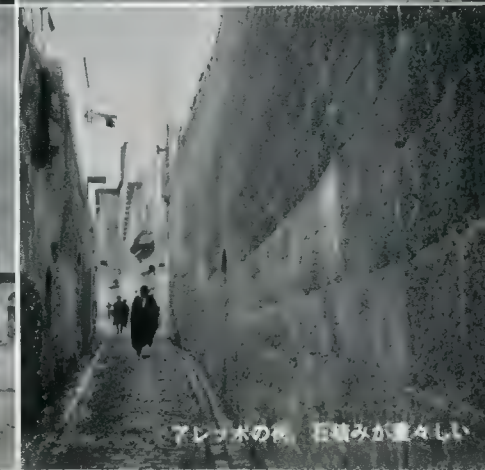
隊商都市の跡　シリア砂漠の中央にパルミュラの廃墟がある。シリア砂漠は一草一木もない砂礫の広がりで、まれにオアシスがあり、貧弱な村があるにすぎないが、かつては地中海域とメソポタミアをつなぐキャラバンの重要な路があった。パルミュラはこの隊商路に沿った大商業都市として紀元前後三世紀にわたって栄えたところである。三世紀にはオダエナトス家の支配の下にローマと結んで、その勢力圏はメソポタミア地方にまで及んだが、二七二年、オダエナトス二世の寡婦、ゼノビアが勢いを頼んでローマと戦って破れ、女王は捕えられ、街は放棄されたまま今日に至った。しかし、現在なお周囲十二粁の城壁の中には当時の繁栄を偲ばせる延長一粁以上に及ぶ列柱のある大道、ベールの大神殿や凱旋門、劇場や広場が残っている。ベールの神殿はバールベックのそれと共にこの地方最大の神殿である。市街の西、墓場の谷には石造の高い塔形のもの、地下室形のものなど数多くの墳墓がある。最近、それらの墓の発掘が進むにつれ多彩なコプト風織物に混って、中国漢代の錦の断片も発見されたが、今は砂に埋れたこの地が当時、東西交易にいかに重要な地位を占めていたかを物語るものがある。

[illegible]

[illegible]アレッポ，イスラム[illegible]

ラタキエの旧市街

北シリアはシリアの穀倉として，経済的に恵まれた地域であり，その中心であるアレッポ，海港のラタキエなど何れも活気がある．アレッポはシリアの農産物の大部分を集散し，全工業生産高の半分を生産するシリア第1の商工業都市だ．ヒッタイト時代にまでさかのぼる古い都市で，市の内外はローマ時代の舗石道や，初期キリスト教時代の寺院，サラディンが築いたといわれる十字軍時代の城塞など，各時代の遺蹟に富む．市の旧市街は石造の頑丈な壁をもつ家々が連なり，重苦しい雰囲気であるが，新市街は広々として明かるい近代都市だ．北シリアはパウロやヨハネなどキリストの弟子達の最初の布教地であったが，その後ビザンチン帝国の支配下に入ったり，イスラム教徒に占領されたり，幾多の変遷を経た．現在では国民の多くはイスラム教徒だが，トルコ国境に近い北シリアではシリア正教などキリスト教の勢力もかなり強い．アレッポの町は人口の過半がキリスト教徒といわれる．

アレッポ，サラディンの城，12C.

アレッポ郊外の聖シメオン教会，5C.

ラタキエ，セヴェールスの凱旋門，ローマ時代

アレッポの[illegible]，石積みが重々しい

トルコ　トルコはボスフォラス、ダルダネルズ両海峡をはさんでアジア、ヨーロッパの両大陸にまたがっているが、その領土の九十七%はアジア側、いわゆるアナトリアに属する。半島状のこのアナトリアは大部分、広漠たる高原とそれを取巻く山脈に覆われ、気候、風土共に、むしろイランの高原に近い。これに対してエーゲ海に面するアナトリアの西海岸は屈曲した海岸線と無数に散在する島が特徴だ。気候も地中海型でイチジク、オリーブなどが育つ。歴史的にも高原地帯にはイラン、コーカサス方面からの遊牧民族の移住や北メソポタミヤからの植民の進出がみられるのに対して、西海岸地帯にはエーゲ文明が早く栄え、ギリシア、ローマ時代にはペルガモン、エフェソスなどのギリシア系都市が繁栄した。四世紀末、コンスタンチン帝が今のイスタンブールに東ローマ帝国の都をおいてからはビザンチン文化が、更にオスマン・トルコ時代にはイスラム文化が栄え、トルコのみならず、地中海域東部の中心ともなった。現在、首都はアンカラに移り、東部地方の比重が再び増大しつつある。

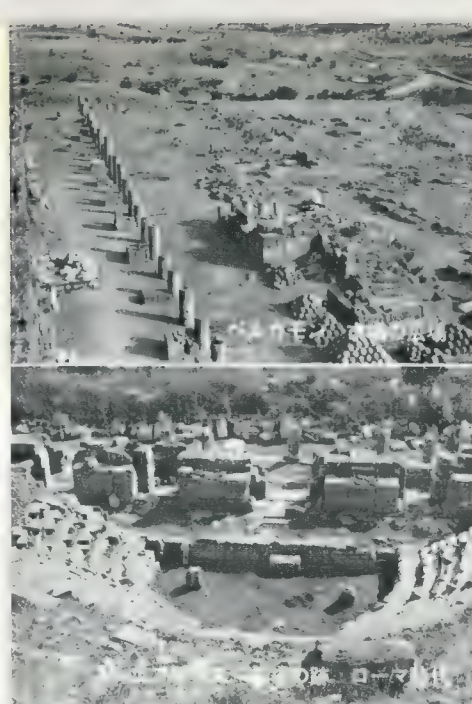
アナトリアの高原には旧石器時代以来，人類が住みついていた．紀元前2千年頃にはアッシリア商人がカイセリア付近に進出，植民地をつくった．一方，それと前後してアーリア系の民族がアナトリアに南下，ヒッタイト王国がアンカラの西方，ボガズ・キョイを都として建てられ，前14世紀にはその全盛時代を現出した．だが前8世紀，この王国が南遷した後は，アナトリア高原には大勢力は起らず，ようやく11世紀に入って，セルジュク・トルコがコニヤに都するに及んで脚光を浴びたが，オスマン・トルコ時代，都がイスタンブールに移されると共にその重要性は再び薄らいだ．1923年，トルコの近代化を指導したケマル・パシャの下にトルコ共和国が生れると首都はアンカラに置かれた．これは過去のイスラム文化から袂別しようとするケマルの政策の一つで，アラビア文字も廃され，ローマ字が代って用いられた．1924年以来，完全な男女同権の国で，弁護士，医師などには女性が多い．

アハメッ…モスク(青のモスク). 17C.

青のモスク内部. 一面に青色の文様タイルで張って…

…フォラス海峡, …はじC. オスマン時代の…

…ール. アタ・テュルク通りから遠くガラ…

イスタンブールはマルモラ海, ボスフォラス海峡, 金角湾の集まるところにあって, 自然と人工を, 歴史の手によって仕上げた美しい街だ. 地理的にはアジアとヨーロッパの接触点であり, 歴史的には古のビザンティウムで, 長く東ローマ帝国の都したところ, 後にオスマン・トルコの首都となった. 従ってここは東西文化交流の中心点であり, 古典文化, キリスト教文化, イスラム文化の長期間にわたる拠点でもあった. 市の内外にはアハメッド一世モスクをはじめ各時代を代表する遺蹟が多い. 二大陸を隔てるボスフォラス海峡は水深50米以上. 両岸には離宮, 別荘, 墓地, 漁港が糸杉や傘松の間に点在している. だがここは撮影禁止の要塞地帯である. 海峡の両岸を巡る遊覧船も黒海の入口まで行くことはできない. トルコの海軍がソ連に対して警戒線を張っているからだ. トルコは北大西洋条約の加盟国であり, クリミア戦争以来, ロシアの南進を抑えるのが基本的政策となっている.

アナトリアの西海岸，エーゲ海にのぞむ海岸一帯はギリシア人がイオニアと呼んだ土地である．ギリシア時代からローマ時代にかけて幾多の植民地がつくられ，都市が栄えた．その時代の遺蹟ではペルガモンとエフェソスが代表的なものといえよう．ペルガモンは紀元前3世紀，アッタロス家の下に発展し，ヘレニズム文化の一大中心となったギリシア人の都市である．ゼウスの大神殿をはじめ，宮殿，劇場などの建造物が残っている．その規模から考えてもアテナイに匹敵するほどの大都市であったろう．エフェソスはギリシア，ローマ時代の都市だが，ここは使徒パウロがしばらく滞在して伝道に従事し，使徒ヨハネもマリアを伴って来住し生涯を閉じたところといわれる．ヨハネの墓のある聖地として東ローマ帝国のユスティニアヌス帝がここに建立させた聖ヨハネ寺院の跡が近年発掘された．コニヤはこの地方の代表的な海港，イズミールの後背地をなすアナトリア西部の要地である．

コニヤのモスク，オスマン・トルコ時代のもの

コニヤ，セルジュク時代の墓石

エーゲ海 東をアナトリアに、西をギリシア本土、南をクレタの島に限られたこのエーゲ海は、多島海の名があるほど大小無数の島がある。ここは古くギリシア文化に先んじてエーゲ文明が栄えたところ。エジプト、フェニキア、ギリシア、ローマ、ビザンチン、サラセン、十字軍、トルコ、イタリアもそれぞれエーゲの島にその足跡をのこした。ホメロスの詩篇はギリシアの遠征軍がこの島々の間を抜けてアナトリアのトロヤ攻略に向ったことを誦い、ロードス島の港に立つ巨人像は七不思議の一つとして当時の世にひろく知られていた。ペルシアとギリシアの運命をかけたサラミスの海戦が行なわれたのもこの海であった。医学の祖といわれるヒッポクラテスの出たコスの島、女流詩人サッフォーの生地レスボス島、デロス同盟の結成地として史上に著名なデロス島をはじめ、歴史的、文化史的に興味のある島が少なくない。観光船で島を巡れば、碧い海と明かるい空、オリーブの繁る島に白い家が光って美しい。

聖ヨハネ修道院の壁画

パトモス島の民家と教会

パトモス島．聖ヨハネ修道院の鐘楼

ロードス島の城区．騎士の邸宅が並ぶ．

聖ヨハネ修道院の礼拝堂入口

エーゲ海はまた，キリスト教との関係が深い．使徒パウロは捕えられてローマに送られる途上，暴風にあって14日間漂流したという．パトモスは聖ヨハネが黙示録を書いたと伝える島だ．この島の聖ヨハネ寺院は城塞のような一風変った建築で，外壁は全て白一色．屋上に設けられた小さな礼拝堂や鐘楼が直截な陰影を投げている．エーゲ海西南端のロードス島には14〜5世紀につくられたヨーロッパの騎士の邸宅が，いわゆる城郭区内にあり，当時の紋章や彫像を飾りつけたまま軒を並べている．しかも驚いたことには，現在もそのまま島民に使われていて，生きた中世の街の観がある．ここはまた海水浴場として知られており，ギリシア本土からは飛行機の便がある．サントリン島は火山の火口壁の一部が海面上に残ってできた島だ．島は絶壁に囲まれ，小さな船着場から崖の上の町までは，ジグザクの急坂道をロバに乗って登る．ぶどう酒の産地で，道行く人にぶどう酒の立飲みをさせる．

バーボティン陶器．エーゲ文明独特の土器．B.C.19～18C.

クレタ島．[illegible]

田舎のレストラン．豚の丸焼きをつくっている

エーゲ諸島のせまい，やせた土地では農耕や牧畜で生活することは困難であったから，住民は早くから海上の冒険にのり出した．彼らはオリエントとヨーロッパの中間を占める好位置を利用して，主として交易に，時には略奪に従い，巨大な富を蓄積し，それによって独特の文明，エーゲ文明を築き上げた．この文明が最初に栄えたのがクレタ島で，特に紀元前2500年頃から1400年頃まではこの地のクノッソス王国が東地中海の覇権をにぎり，ラビリンス(迷宮)の名で後世まで知られた大宮殿を営んだ．クレタ文明は大地震でクノッソス宮殿が破壊された紀元前1800年頃を境いに第一隆盛期，第二隆盛期に分けられる．ウニやヒトデや海綿などの海棲動物を連想させるバーボティン陶器や高尚華奢なカマレス陶器が第一隆盛期の代表的遺物であり，第二隆盛期を代表するものは地震後再建されたクノッソスの宮殿建築と壁画，彫刻，陶棺などである．蛇の女神の象牙丸彫像もこの期のものだ．

クレタ．[illegible]

[illegible]

クノッソスの[illegible]

クノッソス宮殿，列柱の間

蛇の女神．B.C.18～[illegible]

彩画陶棺．クレタ島出土．B.C.14～13C

アテネ，ヘロデイ・アッティクスの劇場 2C. ここでは今もギリシア劇を上演している

ギリシア　ギリシアはバルカン半島の先端部をなす山がちの国だ。面積は北海道の二倍よりも小さい。国土のほぼ八割を山地が占め、複雑な屈曲の多い、長い海岸線を持つこの土地に住む人達は、エーゲの民と同様、海上に発展するよう運命づけられていた。今も世界の海運界ではギリシア系船主の勢力は無視できない。

ギリシア隆盛の時期は他の地中海域東部の諸国に比してかなりおそい。紀元前三千年頃、北部地方に新石器文化が行なわれ、前二千年頃には東方ギリシア人が北から侵入、ミノア文明を受けて南ギリシアにミュケナイ、テュリンスなどの小都市国家を建設したが、いわゆるギリシア文明は前千二百年頃、バルカン半島を南下した西方ギリシア人が定着してから始まったものである。彼等は前六世紀頃の最盛期には東はナイル河河口から西は南フランス方面まで植民活動を行ない、ギリシア文化を地中海域全体にひろめた。直接、或いはローマを通じて、ギリシアの政治、思想、芸術、学術が後世に与えた影響は大きく、ヨーロッパ文明やサラセン文明の母胎の一つとみられる。

アテネの外港，ピライウス港

アテネの[illegible]

アテネ[illegible]

アテネ，ディオニュソス劇場の彫刻

ミュケナイの[illegible] B.C. 14−12C.

[illegible]

アテネはギリシア半島が最も複雑な地形を示すその東南端にあって，アッティカの平野に発達した歴史的な都会だ．前面はエーゲ海にのぞむ．古典ギリシアの黄金時代を現出したアテナイもここにあったし，現在のギリシア王国の首府もここにおかれている．都市国家アテナイの守護神を祀るアクロポリスのパルテノンをはじめ，当時の多くの神殿，劇場や彫刻がここに集まっていて，ギリシア文明の粋を示している．博物館にもみるべきものが多い．市街には２千年以前の古いギリシア文明の雰囲気がいまなお充満し，街を往く娘達にもいわゆるギリシア型の目鼻立ちをした人が少くない．だが19世紀の始め，人口わずか２千の寒村に過ぎなかったアテネはいま人口80万に達し，なおその発展は続いている．外港，ピライウスはかつてペルシアの大艦隊を打破ったテミストクレス麾下のギリシア艦隊が出港した古くからの港だが，今もギリシア第１の港であり，この国の貿易の中心である．

ダフニの修道院 11C…～12C初

ギリシアの都市国家(ポリス)は，何れも守護神を持ち，その守護神を祀る神殿を造営した．アテナイのそれはアクロポリス丘上にそびえるパルテノン神殿である．アクロポリスの丘を西側から登ればプロピュライアと呼ばれる立派な大理石の門があり，その大階段を登りつめると左にパルテノン，右にエレクテイオンが見える．紀元前477年に起工されたこの白大理石のパルテノンはギリシア神殿建築の典型といわれ，世界でも最も壮麗な建物の一つに数えられている．エクレテイオンはこれに較べると，むしろ軽快，優雅な趣きをもつ．ギリシア中部，パルナソス山の南西にあるデルフォイは，アポロンの神託所として名高い．ギリシアの諸市は和戦，植民など国の大事を全てここの神託に問うた．前6世紀がその最盛期で，神域には莫大な奉納品が山積された．神殿，劇場，宝庫，体育場などの遺蹟がある．ダフニの修道院はキリスト一代記を主題とし，金色を主調とした11世紀のモザイクで名高い．

ドナウ河に沿う首都ベオグラド

ユーゴスラヴィア　ユーゴスラヴィアは若い国である。独立のための努力はすでに十四世紀から始められていたが、今の国土が一つの国として統一されたのは第一次大戦後のことで、それ以前は東ローマ帝国、トルコ、オーストリア・ハンガリーの支配下にあった。六世紀のはじめ、いまの白ロシア、ウクライナ地方から南下、ドナウ河流域に定着したスラヴ族が現在の国民の先祖である(ユーゴスラヴィアとは南スラヴ族の国の意であり、この国の言葉はロシア語を知るものには容易である)。バルカン一の大国であり、ソ連圏から離れた唯一の共産国だ。六つの共和国からなる連邦で、主な言語だけでも四つ、アルファベットが二種、民族も南スラヴ族系のほか、ハンガリー人、トルコ人などかつての支配者を含めて種類が多く、地域的特色が強い。地形的にはドナウ河に沿うセルヴィアの大平原、オーストリア・アルプスに連なるスロヴァニア、ギリシアに続くマケドニアの山岳地帯、アドリア海にのぞむボスニア、ヘルツェゴビナ、モンテネグロの岩山地帯に分けられる。

オフリッド湖畔の聖ヨハ[illegible]

オフリッド寺院の壁画

街を歩いても共産国としての色彩は目立たないが，新興国らしい活気がある．政府機関の要職についているのは大部分，第二次大戦中にナチ・ドイツの占領軍と戦ったパルチザンの生残りの若い人達だ．年とった属官をてきぱきと指揮している．何かあるとパルチザンの歌を唄う．役所は朝7時から午後1時まで．セルヴィア南部からマケドニアにかけてはビザンチン時代の古寺が多く，11～14世紀頃の優れた壁画が多く残っている．この国の観光地としてはアドリア海にのぞむ西部の海岸が風光の美で有名だが，スコプリエを中心とするマケドニア地方の古寺巡礼も美術愛好の旅行者を魅了するに十分だ．この辺りはトルコ人が今も住み，トルコ語を使い，イスラム寺院に通っている．アルバニア国境の町，オフリッドは湖畔にある古い町で幾つかの中世の教会の他，トルコ時代の城壁や塔がある．アルバニアとこの国の関係は余りよくない．国境線に近寄ると発砲されることもあるという．

ヴェネチアの大運河．運河に沿ってヴェネチア繁栄時代の家々が並んでいる

北イタリアの都市　地中海中部に突出したイタリア半島の基部にアペニン山脈をはさんで東側、アドリア海岸にヴェネチア、ラヴェンニャ、西側、アルノ河沿いにフィレンツェ、ピサの街がある。何れも中世以来の名邑だが、その性格はかなり違つている。ヴェネツィアは民族大移動の時代、フン族に追われて移り住んだイタリア族の一派がアドリア海を中心に活躍、七世紀末、国を建てたところで、その後、東ローマ帝国と密接な関係を保ち、中世後半の地中海に覇を唱えた。ラヴェンニャは一時西ローマ帝国の、ついで東ゴート族の首府、更に東ローマ帝国の総督駐在地として栄えた。ヴェネチアと共にビザンチン文化の影響を強く受けた都市である。これに対して西側の二都市はローマ法皇との関係が深かった。フィレンツェは十三世紀頃、民主的な市民政治の都市となり、その後、メディチ家の支配下にルネサンス文化の中心となった。ピサは大伽藍と斜塔がある古い静かな都市だ。

[illegible]テオドリックの[illegible]

ドウジェ館の回[illegible]

ヴェネチアは世界で唯一つの自動車のない大都会といわれる．陸から4粁離れ，117の島を375の橋でつなぎ合わせた水の上の都市だ．交通は船に頼る．運河の上にはさまざまの橋がかかっているが中でも大運河のレアルトの橋が名高い．聖マルコの，翼のある獅子の旗をひるがえし，遠く小アジアまで進出したヴェネチア共和国時代の総督（ドウジェ）の館や市の保護聖者，聖マルコの遺骸が葬られている聖マルコ寺院のある広場がこの都会の中心だ．東洋的ともいえる装飾の多いビザンチン様式の大伽藍，新婚夫婦が仲善く鳩に餌をやる広場など，何か幻想的，抒情的な街である．ラヴェンニャは中世の秘宝的な存在だ．ここには6世紀前後のビザンチン様式やラテン・バジリカ形式の古寺が数多く残っている．中でも聖ヴィターレ寺院は平泉の金色堂を想わせる絶品．「静寂の町」といわれるこの古風な街の広場にはいまもローマ時代のように黒い外套の男達が正午(ひる)頃集ってきて立ち話をする．

フィレンツェ，アルノ河にかかるポンテ・ヴェッキオ [illegible]

[illegible]フィツィ美術館，両側に高い建物2棟からなる

ピサの斜塔 [illegible]

第二次大戦中，撤退するドイツ軍を追ってフィレンツェに迫った連合軍は街を破壊しないように特に注意を受けた．ダンテ，ペトラルカ，ボッカチオ，ガリレオ，レオナルド，ミケランジェロなどにゆかりの深いフィレンツェは古い，秀れた建造物，美術品の多いイタリアの中でも，特に際立った都市である．ウフィチ美術館一館だけにもボッティチェルリの「春」「ヴィナスの誕生」，レオナルドの「受胎告知」，ラファエルロの「カルデリーノの聖母」などの世界的な傑作が並んでいる．聖クローチェ寺院にはジオットーの名高い壁画がある．フラ・アンジェリコの「受胎告知」は聖マルコ修道院にある．街自体も美しい．民家は殆んど全て赤褐色の煉瓦でつくられ，赤い屋根をいただいているが，沈んだ，落着いた色調である．昔は花の都とも呼ばれていた．ピサはフィレンツェからアルノ河に沿って下ったところにある都市で，ガリレオが引力の法則の実験をしたと伝える有名な斜塔がある．

中部イタリアの[illegible]，村は[illegible]丘の上にある

[illegible]民家

フィレ[illegible]オモ（本寺）の壁面

ローマ 永遠の都ローマとか、ローマは一日にして成らずとか、ローマについていろいろの言葉があることからもわかるように、ローマは長い間、地中海域の王座を占めていた。ローマはテーヴェレ河下流の七つの丘に起ったといわれているが、先住のエトルスク人を滅ぼしたローマ人はここを根拠として紀元前三世紀末には全イタリア半島を制圧、最盛時には東はシリア、レバノン、西はイベリア半島、北はドナウ河流域から遠くブリテン島まで、南は北アフリカの沿岸までその領土をひろげて地中海を完全にその内海とした。北方からいわゆる蛮族が次々と侵入してローマ帝国が滅亡した後も、ローマ法皇はヨーロッパの精神的な帝王として、中世のヨーロッパ全体の中心であった。ルネサンス文化もまた、当時の法皇の庇護の下に、ここに最大の花を開いた。近世になって、法皇の権威の衰退と共に政治的、国際的な中心としてのローマの重要性は失なわれたが、その歴史的、文化的な遺産の故に、依然、永遠の都としての生命を保っており、毎年ここを訪れる観光客の数は八百万人に達するという。

ローマを訪れる全ての旅行者の嘆きはみるべきものが余りにも多いということであり，何れもが余りにもすばらしいということである．最近はじめられた地下鉄工事も少し掘り進むと遺蹟にぶつかり，調査活動のためになかなか進捗しない．主な遺蹟だけでもローマ時代のフォーラム，パンテオン，コロシアム，カラカラ浴場，幾つかの記念門などがあり，中世のものとしては聖マリア・マジョーレ，聖サビーナの両寺院，ルネサンス時代のものにカンチェレリア宮，聖ペテロ寺院，ファルネーゼ宮などがある．カトリックの大本山，聖ペテロ寺院と法皇庁のあるヴァチカン市もローマ市域内にあるが，ここは独立した法皇領であり，法皇庁に入るには入口でパスポートを預けねばならない．聖ペテロ寺院は世界最大の伽藍といわれ，その大円屋根はミケランジェロの設計になるもの．システィナ礼拝堂を含む付属博物館はギリシア時代からルネサンス時代に及ぶ美術品を無数に収蔵している．

ローマ人以前に中部イタリアを支配していたエトルリア人についてはまだ謎の部分が多い。その民族の起源にしても，紀元前千年頃，小アジア方面からイタリア半島に移住したものという通説に対し，もとからイタリアにいたという説も有力だ．その文字が解読できないため，言語の系統もいまだに分からない．ヴォルトゥームナという守護神を中心に団結し，紀元前８世紀頃からローマに滅される紀元前３世紀頃まで，この地方に勢力をふるっていた．ローマ人が政治・軍事，土木工事など実用的な面に秀れた手腕を示したのに対し，エトルリア人は絵画，彫刻などの美術や死後の世界などに関心を寄せた．都市の遺蹟のあるオスティアはローマ時代，ローマの外港として栄えたところだが，疫病の流行のため見捨てられたものらしい．当時の都市の遺蹟としてはポンペイ，ヘラクレニウムなどがあるが，オスティアはこれらに劣らず完全に残っており，ローマ人の都市生活を偲ぶことができる．

ソレントの町．ここからカプリ島行の船が出る．約1時間

南イタリア　南イタリアは地中海域の中でも最も地中海らしい地方といえよう。夏の雨量が少いのがこの海域の気候的特色だが、ナポリ付近では夏の四ヵ月間は殆んど雨をみない。オレンジの畑がいたるところにある。ナポリを主邑とする南イタリアはローマを中心とする中部イタリア、ヴェネチア、ラヴェンニャなどの北部イタリアに比して早くからギリシアやオリエントの文明と接触していた。紀元前八世紀にはギリシア諸都市の植民運動が南イタリアの海岸に展開され、ナポリの北部に旧市(パレアポリス)が建設された。(それに対してローマ時代の新市、ネアポリスがナポリである)。ナポリはその地理的な好位置と温暖な気候、明媚な風光をもって人々を誘引したのであろう。ローマの後も、ビザンチン、オーストリア、スペイン、フランスなどの統治下におかれた。ナポリ湾口のカプリ島は今も観光地として名高いが、ローマ時代、すでに貴族達の避暑地であった。ヴェスーヴィオ火山を目近に仰ぐポンペイには神殿、裁判所、度量衡検査所、劇場、公衆浴場などのある典型的なローマ人の都市が栄えていた。

カプリ島―青の洞窟の入口

ヴェスーヴィオ火山がチレニア海にのぞむところにあるナポリは世界３大美港の一つに数えられるイタリア第１の良港だ．商業都市であるが，ポンペイ出土の絵画・彫刻を並べた美術館，二つの城塞を持ち，周辺のカプリ島，ポンペイへの足場でもある観光都市だ．９月７日を中心にここで行われるピエディグロッタの祭には全イタリアの民謡作曲家が集まり，作品を発表する．有名なサンタ・ルチアの海岸通りはその新作，旧作をきこうとする人で埋まる．ポンペイはナポリから自動車で１時間ほど．79年８月24日のヴェスーヴィオの噴火で埋まった都市で，18世紀から発掘が進められたが，いまだに一部はそのまま残っている．カプリ島はナポリ湾の南岸をなすソレント半島の沖にある小島．海岸の岩壁の下の有名な青の洞窟は午前中ボートで中へ入ると海水がエメラルドをとかしたように青く澄んで美しい．櫂を操りながら唄う船頭たちのテノールは日本ではザラに聞けないほどのものだ．

シチリア島　現在イタリアに属するシチリア島は地中海域の中央、北はイタリア半島に、南は北アフリカに接し、地中海を東西に二分している。その大部分が山岳と荒地におおわれた、物産に乏しい、恵まれない島だが、その地理的位置故に早くからフェニキア人やギリシア人が植民し、その文化が伝わり、後にはサラセン人がここを占領した。これらの民族は更にこの島を経由して西地中海域に進出した場合もあったが、逆に、北・西ヨーロッパの民族や文化が西地中海を通ってこの島に及んだこともあった。十一世紀、サラセン人からこの島を奪取したノルマン人はその著しい例である。アフリカに近い関係からアフリカ的要素、イスラム的要素も島の文物に濃厚にみられる。首都パレルモはフェニキア人によって開かれた北岸の古い港町で、ノルマン王国の時代にはその首都であった。その王家の創建にかかるここのドゥオモは十四世紀以降の修復が多いにもかかわらず、ビザンチン風、サラセン風、ノルマン風、ゴシック風など、この島に押し寄せ、堆積した文化の凝塊を見るような印象をうける。

墓の扉石．青銅器時代

モンレアーレのドゥオモ．1174年の建立

シチリアの遺蹟にはその長い，複雑な歴史を反映して，各時代，各民族がもたらした様々の様式のものがある．東海岸の港，シラクサはギリシア人の植民した古い都市だが，この地方は早くそれ以前，青銅器時代にも島の中心であった．当時の岩窟墓が多く残っている．墓の扉石には渦巻きなどの模様を刻んだ面白いものが少くない．ギリシア・ローマ時代の遺蹟としてはアグリジェント，タオルミーナ，セジェスタなどが名高い．タオルミーナにはギリシア時代の劇場跡が，セジェスタとアグリジェントには神殿が残っている．それらの神殿のあるものはギリシア本土にも数少ないほど完全な姿を留めている．中世以降ではパレルモのドゥオモと宮殿，市外モンレアーレのドゥオモが代表的だ．とくに後者はビザンチン様式のすぐれたモザイク画と，美しいサラセン風列柱をめぐらした中庭で知られている．パレルモまではローマから汽車に乗ったままメッシナ海峡を渡って乗換なしで行ける．

モナコ．岬の上にあるのが王宮

コート・ダジュール　フランス人がコート・ダジュール(紺碧の海岸)、或いはミディと呼ぶ地中海に面したフランスの南海岸一帯は、フランスの他の部分とはかなり違う。気候からみれば、ここはフランスというより、むしろイタリア、スペイン、ギリシア、北アフリカの海岸に近い。民族的、文化的にも、これらの地中海域とより密接な関係を持っていた。この地方第一の大都市、マルセイユは古くはマッシリアの名で呼ばれ、ギリシア人はここに拠って西地中海域を支配した。ツーロン、ニースなどもこの時代からの歴史を持つ。ローマ帝国が支配した時代、ここはローマの属州(プロヴァンキア)となった(この地方の名をプロヴァンスというのはこれに由来する)が、当時、フランスの他の地方はガリアと呼ばれ、戦争奴隷を地中海域の産物と交換していた蛮族の地にすぎなかった。中世には一時、法皇庁がアヴィニヨンに置かれた。マルセイユが仏領となったのは十五世紀の末のことで、コルベールが東方貿易の特権をここに与えてから商港として急激に発展した。現在、コート・ダジュールは陽光と碧海に恵まれた国際的避暑地である。

モナコ．賭博場

モンテ・カルロの[illegible]建物の大半はホテル

コート・ダジュールの避暑地は極端にいえば人工の賜物である．自然が恵んだものは日光と海だけだといってもよいだろう．東からモナコ(モンテカルロはモナコ領内にある)，ニース，カンヌと続くこの地域の東部海岸には海際まで迫った丘陵の急斜面に新旧のホテルや豪華な別荘がぎっしりと並んでいる．カンヌもニースも，19世紀に海岸の遊歩道をつくったのがその発展の基礎となった．夏のシーズンにはカーニバルや国際映画祭などがにぎやかに開催される．13世紀以来，フランスの保護のもとに独立を保っているモナコ公国はその国家経済の殆んど全てを，有名なモンテカルロの国営賭博場からの収入に頼っている．ローヌ河に沿ってプロヴァンスの中心部に入って行くとアルルがある．ここはローマ時代，ゴールのローマといわれ，プロヴァンキアの都であった古い都市で，当時の円形競技場や野外劇場，それに12世紀のロマネスクの美しい彫刻で知られる聖トロフィーヌ寺院がある．

トロフィーヌ寺院入口の彫刻

スペイン東北部，カタルーニァ地方．スペインに入ると[illegible]山が目立つ

スペイン　スペイン人はよく「スペインとヨーロッパ」という言葉を口にする。確かに彼等が自認するように、スペインは他のヨーロッパと様々の点で違っている。現在、二十年間も独裁政治が続いているのは、ヨーロッパではフランコのスペインと、隣国、サラザールのポルトガルだけだ。ピレネー山脈を南にこえてスペインに入ると、荒々しい岩山の風景に一変する。歴史的にもかなり異なった道を歩んだ。スペインの東北部、レバント地方には旧石器時代に、北アフリカ系のカプサ文化が岩かげに多くの壁画を残した。下って八世紀にはイスラム教徒のサラセン人(現在のモロッコ住民、モール人はその子孫)がジブラルタル海峡を渡って侵入、一時、イベリア半島全域を席捲、十五世紀末まで南スペインに留まった。スペインに濃厚なイスラム的情調、アフリカ的風物が見られるのはこうしたことが要因の一つであろう。サラセン人を退けたスペイン王国はその後、ヨーロッパ諸国よりも早く、アメリカ大陸を中心に海外植民地の獲得に務め、そこから得た富によって十六—十七世紀に黄金時代を現出、欧州一の富国となった。文学にセルヴァンテス、絵画にグレコ、ヴェラスケスなどが出たのもこの時代である。

スペイン北部

イカ釣り[illegible]

[illegible]の民家．この辺りは[illegible]山ばかり

[illegible]年ガウディの考案

[illegible]時代の[illegible]

モン[illegible]ベネディクト教団[illegible]がある

スペインの東北部，カタルーニァの海岸，特にバルセローナから北，フランス国境まではスペインには珍らしい，のどかな風景がみられる．糸杉，ミモザ，サボテンなどの茂る海岸は屈曲に富み，丘や岬や湾が展開する．湾の奥には静かな港があり，小さな漁船が港に並んでいる．バルセローナはこの地方の主邑で，にぎやかな雰囲気にあふれる街だ．スペイン人の愛好する遊歩道が縦横に通じている．名所はアラゴン王が14世紀に完成したスペイン・ゴシックの大聖堂，それに怪奇ともいえるほど独創的な聖家族教会など．コロンブスがアメリカへ向けて出発した港で彼の記念塔があり，港にはその乗船と伝えられる船もある．バルセローナから海岸を南に下ったタラゴーナはローマ時代，100万の人口を擁したといわれる都会で，この街の建物の大部分は古代の城壁の石材でつくられているという．モントセラートは海抜千米を越える石灰岩質の岩山だ．古いベネディクト教団の僧院がある．

レリダの古い聖堂. 13C. 破損がひどい

スペインの東北部は有名な岩山地帯で，殆んど平野はなく，河は深い谷を刻んでいる．岩山の斜面に石を積んでわずかな耕地をつくり，農業や牧畜で暮しを立てている，スペインの中でも最も貧農の多い地方だ．泥の家が普通で，時にはたて穴に住む人達もみられる．住民は背が低く，丸顔で，温和な感じだ．老人が目立って多い．この地方には古く旧石器時代，岩かげに雨露をさけ，そこに戦争や狩猟，踊の絵などを残した人々がいた．ヌマンシアにはローマ時代の石を敷いた舗道や，それ以前，この地方を中心にイベリア半島の大半に分布していたイベリア族の大集落の址がある．いまは地味がやせ人が少ないこともあって大きな都会は稀だが，谷の開けたところには地方的な小都会があり，昔の領主の館が残っていたりする．彼等は現在もかなりの権力を持っているようだ．町々には意外に立派なロマネスクの寺院があり，これらの寺院の彫像には飛鳥仏や中国の六朝仏を思わすものがある．

スペイン東部．見渡す限り林はない

ピレネー山麓のレリダの町．セグレ河にまたがる古い町

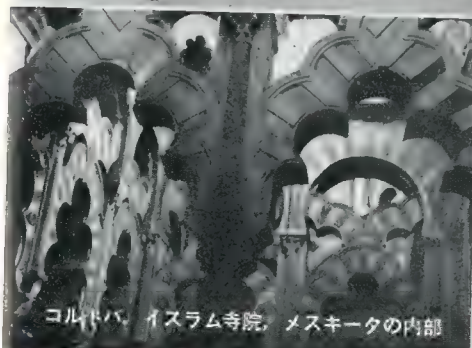
スペイン人　一四九二年にグラナダを占領、八世紀以来、スペインの奥深く侵入していたサラセン人をジブラルタルの彼方に追い返してから現在まで、ピレネー山脈が絶好の防塁となって、スペイン人は長期間の外国支配を受けたことがない。

スペイン南部

十六世紀以降、彼等はこの安全な国土を基礎に、アフリカ、アメリカ、アジアの各大陸に発展、英帝国に先立ってその領土に太陽の没することのないのを誇った。現在、その植民地の大部分を失ったが、依然、国内には盛時の富を偲ばせる雰囲気がある。「スペイン人は各人が腹の中に王様をもっている」といわれるように鷹揚、明朗で人を疑わない。また客を歓待し、祭好きだ。スペインが他国から干渉を受けず、生活を維持し、文化を発展させてきたことによるものであろう。このような事情はスペイン国内に地方色を強く残す要因でもあった。いまも地方毎にその中心都市があり、各々、大伽藍を持っている。北部の人が質実勤勉なのに対して、サラセン文化が長く栄えた南部地方は異国情緒に富み、人々の気質も陽気で華やかである。

毎週２回行われる

首都マドリッドはスペインのほぼ中央にある．16世紀，スペインの黄金時代以来の都で，立派な王宮や王廟にも大帝国の風格が感じられる．現在なお繁栄している大都会で，近代的な面も多いが，古い静かな街には義賊がかくれていたと伝える穴倉のような酒場とか，子豚の丸焼きを喰べさせる古いレストランなどがあって，古風なスペインが見られる．カトリックの国だけに寺院が多く，礼拝像を売る店も目立つ．復活祭前後は4～5日間，交通機関以外は一切休業というほどだ．一方，街には酒場が多く，エビ，貝などをさかなに立飲みをする．何百年も続いた老舗も幾つかある．すべてに大時代的で，中世そのままの服装をした番人が公園にいたりする．スペイン人は芸術，技能に対する批判がきびしい．有名な闘牛士も戦いぶりが悪いと，やめろとか，金を返せとかいってさわぎ出す．宵っぱりの国民で，晩餐会の招待が11時などということもある．市内の電車は２時過ぎまで動いている．

コルドバの民家はどの家も壁に花を飾ってある．路地の向うに大聖堂の鐘楼がみえる

コルドバ，イスラム寺院，メスキータの内部

スペインの南部にはスペイン最大の平野と最高の山がある．銅，銀の鉱産に富むため，早くから地中海沿岸の諸民族によって開発された．イベリア族の一派であるトゥルーデタン人がここに青銅器文化をつくり，その後，フェニキア，カルタゴ，ローマが征服し，ヴァンダル人，西ゴート人，最後にサラセン人が来た．サラセン人はコルドバを中心に西カリフ王国を建てたが，当時のコルドバはヨーロッパ最大の都市であり，その図書館は蔵書60万巻．各国の学者がここに集まって，ギリシア哲学の研究も行われた．西カリフ王国はその後，大小約20の王国に分裂，13～15世紀にかけてキリスト教徒に再征服されたが，スペイン南部にはいまも当時のモスク，城塞，宮殿などが数多く残っている．中でもグラナダのアランブラ宮殿が名高い．民家には美しい中庭(パティオ)のあるものが多く，中央に井戸や水盤を設けて，周囲に植木や草花を飾っている．オリエント起源の趣味にちがいない．

首都テトゥアン．古い城壁がいくらか残っている

ジブラルタル
タンジール
テトゥアン
ラバト
フェズ
カサブランカ
マラケシュ
モロッコ

モロッコ　ジブラルタル海峡を距ててスペイン南部と相対するモロッコは、北アフリカの地中海域西端に位している(モロッコとは西の果てという意味だ)。アフリカ大陸にこそ属しているが、三千米級のアトラス山脈がサハラ砂漠との間にそびえ、南からの熱風をさえぎるために、いわゆるアフリカ的気候ではない。山地では雪の降ることさえあり、むしろしのぎやすい地中海的気候である。

ここは元来、ベルベル人が住んでいたところだが、八世紀にアラビア人(サラセン人)が東から侵入、モハメッドの子孫と称するものが宗教上、政治上の首長、スルタンになった。以来、千年余りの間、モロッコはスルタンのもとに独立を保持しつづけたが、近世になってヨーロッパ諸国のアフリカにおける植民地獲得競争が激しくなると共に、今世紀のはじめ、大部分はフランスの、一部はスペインの保護領となった。第二次大戦後、他のアラブ諸国と同様、民族運動の一環として独立運動が起り、反仏的なスルタン、ベン・ユーセフがフランス当局のため、マダガスカル島に遠流された事件もあったが、一九五六年、フランス、スペイン両国の譲歩によって、完全な独立を回復した。

ジブラルタル遠望

タンジール．イスラム教徒の町にスペインの教会

テトゥアン．王宮の前

テトゥアンはモール人の町

テトゥアンの手芸学校．糸紡ぎを教えていた

タンジール．モールの楽人

モロッコの人口の60％はモール人，残りがベルベル人だ．この他，フランス人，スペイン人，ポルトガル人，ユダヤ人など，主として今世紀に入ってから移住した人達がいる．モール人は多く都市に住んで商業や小規模な手工業に，ベルベル人は山地で農業・牧畜に従っている．彼等は何れもイスラム教徒で，戒律を厳重に守る風が強い．婦人達はおそろしく厚い着物を着て，大きな頭巾をかぶり，完全に顔をおおっているものが少くない．イスラム教徒の経営する旅館にはイスラム教徒以外はとめないから，外人向きの旅館のない田舎町に行くと，「異教徒」は宿泊にも一苦労する．タンジールはジブラルタル半島と相対して地中海の入口を扼している港で，現在は国際管理下にある自由貿易港だ．テトゥアンはその東にある，かつてのスペイン領モロッコの首都．全部で60はあるという，小ぎれいなスルタンの王宮の一つがここにある．手芸学校の建物も，王宮に似た美しい建築である．

強い日差しを反射するためだろう，どの家も壁は真白な漆喰で塗ってある

これでもモロッコでは緑のある方だ

モロッコ北部の田舎．小麦をつくっている

シャウエンの住宅地．暑いためか窓は小さい

モロッコの田舎町の一つ．シャウエン

タンジールやカサブランカのような大都市ではヨーロッパ人の居住地区と，モール人の居住地区とがわかれているが，シャウエンのような田舎の町は，完全にモール人の町である．白く塗った家(いわゆるカサ・ブランカ)が狭い道の両側にぎっしりと並んでいる．建物の縁や窓は青，緑などできれいに縁どられている．町は城壁をめぐらし，入口や辻々にはサラセン風のアーチがある．市場は迷路のように細い道が曲りくねり，たくさんの店が集っている．だが秩序はよく保たれ，ベルベル人の多い山岳地帯でもさほど危険はないという．産業は農業と牧畜が主である．農法がおくれているために農民は貧しいが，土地は肥沃だ．燐鉱石をはじめ，鉛，亜鉛など鉱産資源も多い．しかし，地中海域の他のアラブ諸国家と違って国民の文化水準は低く，住民の大部分は文盲である．モロッコ王国は独立国家として新発足はしたが，実際に近代的な国家にまで成長するのは，まだまだ先のことであろう．

シャウエン．朝市に出てきた農夫たち

朝市にきた女たち．田舎ではヴェールは被らない

地中海域関係略年表

地域：エジプト／パレスチナ・シリア／アナトリア／エーゲ／ギリシア／イタリア／西ヨーロッパ

目盛：3,000／2,000／1,000／B.C.／A.D.／1,000／2,000

エジプト：古王国／中王国／新王国／アッシリア支配／ペルシア支配／ローマ支配／イスラム教徒支配／オスマン・トルコ支配

パレスチナ・シリア：フェニキア／イスラエル／オムマヤ王朝

アナトリア：ヒッタイト／リュディア／東ローマ帝国／セルジュク・トルコ／オスマン・トルコ

エーゲ：クレタ／ミュケナイ

ギリシア：ギリシア／マケドニア

イタリア：青銅器時代／エトルリア／ローマ帝国／(シチリア)ノルマン王朝／ルネサンス

西ヨーロッパ：イベリア族／ケルト族／メロヴィンガ朝／ローマ支配／サラセン人支配／フランク王国／ゴート族／スペイン王国

B.C. 2778～2723 エジプト第3王朝
1580～1314 エジプト第18王朝
1450 ヒッタイト新王国成立
1044 イスラエル人王国を建てる
500～479 ギリシア・ペルシア戦争
342 アレキサンドロス即位
272 ローマ，イタリア半島を統一
241 ローマ,カルタゴを滅す
27 ローマ帝政となる
ca.5 キリスト生る
313 ローマ,キリスト教を公認
A.D.3～5C.ゲルマン大移動
395 ローマ帝国分裂
476 西ローマ帝国滅亡
711 サラセン人,イベリア半島を征服
1096～1272 十字軍
14C.末～18C.末オットマン・トルコ,バルカン半島南部を支配
1453 東ローマ帝国滅亡
1492 コロンブス,新大陸を発見
1861 イタリア王国成立
1914 第1次世界大戦始る
1958 アラブ連合成立

地中海巡りの観光船. 15日間で2等料金は食事つき約10万円.

地中海　地中海は狭い海だ。その長さは四千二百粁、幅は最大千五百粁、面積二百九十七万平方粁。ほぼアルゼンチン一国にあたり、ソ連の七分の一、アメリカ合衆国の三分の一強にすぎない。南の入口、スエズ運河のポートサイドからマルセイユまで、汽船で直航すれば三日の旅である。気候も単純だ。緯度からいうと北緯三十五―四十五度、ほぼ京都から北海道の北端までの範囲だが、北側がトルコのタウルス山脈、バルカンの山地、スイス・アルプス、スペインのアラゴンやアンダルシアの山地に限られ、南が砂漠の多い低地帯となっているため、亜熱帯といえるほどに暖かい。地中海の北岸にも南岸にも、ナツメヤシ、オリーブ、イチジク、サボテン、ミモザ、ユーカリなどが繁っている。この風土が地中海域にアルプス以北、黒海以北の北ヨーロッパやロシアとは異なった南国圏をつくり出し、ここに住む民族の性格に、また文化に基本的な影響を与えた。島の多いこの海は幼稚な航海術しかもたない太古でも、比較的安全に航行できたから、さまざまの民族が東西に移動し、文化を伝え、また受け入れた。北及び西ヨーロッパ文明もこの海域をその文明の母体とした。

マルセイユから出る地中海の遺蹟めぐりの観光船は明かるい陽光を求め、文明の源を尋ねようとする北・西ヨーロッパの人達で一ぱいである。

本船からサントリン島へ

エジプト．カルナークの神殿．B. C. 13C.

30

¥ 100